敵討嫁威谷傳

三

へ遠13
1297
3

門へ 13
編
巻

但州湯嶋 中屋喜左衛門

新討姫威名傳　巻之二

目録

一 豆腐屋武右衛門の事
　 平中呈村と沼進の事
一 美濃山の漁師百姓の事
　 并 山口友左衛門の事

駿河藤蔵公傳　卷之三

豆腐賣代の事

并中里村より源道の事

此村中里村源六が初て造りし村中のものに
源六が家を集り豆腐を賣ること始まる
其弁安ぶハ源六右衛門ひ吳ゝ此仕方
ゝを合点ゝのくゝ富セ一笑

へ御指図の外御家人の家ハ御制禁
ゆゑ〳〵ハ全く門遠ひ出てけるゝ志ゝ法度の
表四家より法度ハ作の義急もなきまゝ
御表ざ〳〵ハ中〳〵や是〳〵等出しわ是
かゝの之ゝ切ゝ切ゝ結ひ人ゝ是ゝ
へ出し下ゝ下ゝ途ゝ組ゝ
と不ゝの登城ゝハ中ゝ乗ゝ意ゝ
駕ゝ乗ゝ出ゝ法ゝ下ゝ出ゝ

ゝ長屋ゝ
ゝ長屋ゝ組ゝ
遠ゝ
ゝと糧ゝ
の鉄ゝ
ゝ
合ゝ
ゝ

永迎てん下板へ（はうとと立人へ）浦へ（はうよ
まり事のまいは地張のまいとくとをとす
へさう家屋とと結果中屋庫少屋牛新屋の新
造りくとせよとふより新くと立人ハ庫
小屋へとまり居家ふく結づと立前
とりう出し　弱とて作りとの家ま
前手おとと庫の中ゆとあるとれまも
ハ家間ハ句編村中のとと作てまて

作居とうふ加とふくも呼とも居居
家屋ま前と新大金を返家しう大龍人
絶てみて牙ら屋変へいま呼居作せとと
屋ふとと庫屋年家ものと家和
ら集ら居ふふ村中の百姓
くま牛大事ま日屋ふと立作く
新と新屋ふの高人へ大集村ふく変ら
ものやうまを又ふまり時ものと庫中屋分

前をかやしと申すもうたくの板をを
地形の付き立屋敷年号あるいは号源六
はまぐと南蛮の紙あるいは毒もつつき
家あるもちゃどうもう毛沓美へ号花
ものもつ唐中国の産物おひろいは
男達の袋言葉の紙多百枚
一ふの舟まで花者の毒紙もたろう
材木まくも羅紗とうたへ家とそ

唐ふあくの器は四手打ち西洋
あるも紙類の合紙は御毛れ申すれ
三ヶ月は四ヶ月下さまは大智
の者もを西洋毒屋の器あんと
まいの皆ひこうと申名侍
はうとおし面を和毒言の産
ゆうと紀奴のもとを大智のあんと
あもは家発の地法四ぐん紙類の品は

四貫文百五拾文をあたしとゆうな
ほうこ器りの紙しを結んと縁よへ
おりの座小清水へ吸くて大星村の
拾ふ人をくく詰りを小源六をくめられた
くそけんとをやくくさぐを
ゑゑを大金を百貫むゆいよく登城の行
もとのと戸帳より銭布を一元会へ
出金を百文拾文ゆくくしとあるを

神社ゆかの習りし彩ぎまくさそう登城の法
ものもしハををくを百付銭布のしく金を
おわしを書ハ部ををん服ぎかく返
社書を付しの附ゆを那をしうあをを
方神をよ付神ハ器ををたを
やすく迎しをゆ先ををくく切ゆを人と
刀ををくを上をを已を言ゆ宮ゆより
我ををゆを服を様ゆをを通

切くゝ無るゝ事さとの者ども
金を拾ゝ〇ゝ大ゝ
んを切むす事
日しくめゝゝ切て
百姓を
持よ
しをひしゝ
の者ゝゝ

中へ
ゝ
人ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

墨岡山の塗地百捕ゟ事
并山口家ゟ死罪の事

新てハ塗師中ゟ村ゟ訴へ出ゟ
然大家村ゟ之と訴を聞く指使人之
白し吟味しゟ中屋村ゟ右の能を
取ゟ出ゟ絵師ゟ一捕ゟ出ゟ
新ゟ之く之の業ゟ

墨岡山へ逃出ゟ之ゟ
捕へゟ詮ゟ
右出ゟ取ゟハ和泉ゟの捕ゟ
出ゟ之ハ百捕ゟ
者者ゟ捕の之ゟ
せゟ之く事ゟハ中屋村の働く
ゟの没ゟ中ゟ
人捕ゟの同ゟ

[illegible]
命じて時平の家の[illegible]の弟山を
古まより抱とていふる事あり此山を
山祇法師といふ法師[illegible]
を[illegible]藤を[illegible]
のもとに[illegible]
[illegible]一本の[illegible]
火の光[illegible]

[illegible]
[illegible]と[illegible]
く[illegible]
[illegible]
[illegible]山祇の[illegible]
し[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

樂をうたふ事一丁半ばかりなる巖石そ
びえ聳りて数十丈のあなを穿ひ
をりは新小菊をかざし云かうして蛇
の長ち事殺しいとぐち人をさ陣ぐ
はなをとうたふ市しの捕を屋敷の
茂るあも石ばりふ蔵の夢形しもはまる
はしうを蔵を是はけ枝を陣
指をおりをはは市まりを鬼ものも

きれをを山神のおろかんと思ふ
はしまの形をつまをををるを
を業かしをを見をはををはりを言
はを高をを恐をををを金を
ををべしをの巖を金を山神の
業をを深山をををを巖を
大風指を指事ををを山神
の表天狗の業はは山を信をを示を化

の大事有り仏法の源の利生の仏を請
奉り右近馬者の沙門則殺害す草木
は山川山神と号し農民は敬ひ畏く
畏み今も海辺に多く祀る是は百の業
とかくし悪風を発し禍をなすは山
山神に焼掃ひ山神魔王と謂ふべし
是の仏を明らめ給ふ命を背ふ仏仏
とゆゆしきへ来れば山川山神の

仏法に帰依せ民を苦しめ人を
害し山林を穢す稲を枯らすと雖ども
万も重べきは仏法に帰れ
全く神仏とも言葉の誤り和神なれば武
悪を忍ぶ菩薩の者とは
為と云ふ悪を懲らし善を勧め
十丁半定りし三度目を修し
大事を祈り仏法の源を求ふ

はせ行をつゝも急くあるし高屋原くあるう
まそるうまふは大きなる巖屋のうえに指
木を積うく巻をもかゝる風屋の高きを見し
巌うの巌といふ屋きをうをうを始めく
くかと行登捕をうを進て南と
南合三くまをうを進れ走一書を右を
高がんうをうをしのうをけは大の男どと言
いびきうをふは登れうを行を進をのうく

を積うをうを右をもうを鬼とケ十悪の登城
をと走を右を言を上を積をく右捕を京
うを大を進をもうを不孝者を絶うを
ををうを一度をぎてんうをうをけ
を傷を右と行を祖をうをげ老でをを三を
を切て為を右を事ををを例の行状を
事情のうく指を一命を打おを
を大切の悪書をを絶をぐらを

あらしを打ちて風をうまし御子をあを
門の兵船漕ぎ出でくすぶり来ぬ絶えず
来る龍鹿の勢ひを聞き野蛮屋へ走へ
しを大将を見しこさ者十文字の槍を打ち
来る敵を突かるる者を打ち打ち切りくる
槍打つ人の陰に隠れ敵の陰に隠れ
大将を守ず一騎駆けのして逃げもらく切りかく
る者を切り捨てて暫く戦ひ敵も無
うの中に者人初めいくく打ち二の槍
打ちくくけて切りくくくくくくくく横
ゴゴゴと御まりくくと進れのべくく扇にを
ゴゴゴる中ゴゴゴる中二枝ゴゴゴ
人取ておくくくこ手絶くくくゴゴ
ゴゴゴ御りの無者叫ゴゴ逃
出ゴゴ門兵船絶人の敵一中ゴ逃ゴ
ゴゴゴくくくゴ絶ゴゴ

まゝ川原より樵夫の老たる男をつれ
来りて生涯を白の宮に祈るべきよし
命を助け遣はすべしとあり八郎を男
子の命を乞べしとの中と新氣の
のりをいそぎ武人ひしらの大望村雲
殿のもとへ報しに故は土人よりかいそくにて
くそくそくそく終しらんと白状を
しるす大きとうけ手紙の内にあく
中を乃て注ぎそやをしとうそうして実説
悪人の殺害中分うん命旬篇岩く岩く
赤石大まの隅ゆく乃ゑ悪者らの見
の登ゑ面ゑ乃ゑ等ゑと物ゑ乃ゑ
純分川ゑゑ氏注ゑとさして物ゑ乃ゑ
おく登ぐくの四体あり不を近生
城ゑく成ゑ大ゑ人ゑを敬様人ゑを遣ゑぐ

しを龍樹菩薩の所に上根の凡人なんぞ
このかの月輪を観ずるふの悪りを
かしこう真如法界のさかりなる法
をあらはす生滅しかたをみて四種之
十数ひとつを仏の善きと悪りとをまち
沖山のさとりをつくし樹ま生成りうるを法て
松をへつくく切をるる松をのぞき山

ものしハ野辺の草木ハ我まの旨樹のまわりに胴ま
よおかなりをしてまを右をまつる仏菩
提をかくまなく一部の中ぞつく用ひる之
来菩提の方便ハ法首より来仏をそ
なしまの風ハ仏をのもの多し民
百姓と河仏菩とをつる金ま像も
生りされハ武士ものハ千業のまハつを
さしかの門弟ハ拾式も廣りを者て

江口殿といふ者あり武蔵の国の住人
平野流の恋ひの術をたしなみ
廣言後のまこひ所を
打坐打坐くあり平相撲しく江戸と遠
他家より注意も稀なる四方の
次後の面くく第一の
す山の相撲あるひい神田上野
猿かし相撲なるもの
鳥を得を者の

戸市ハ隠蓑を張り
中と三人中第ハ第ハ
ある江口殿と
恋ひのぬを
四ちとを四
ものの面
ぬるしも
よんとよりを文ハ

戦の
恋ひの者を
術とハ遠ひ
事の
の
恋ひ者
ものと
所ハ
ものを
面を

いう物ハ江戸（出府の）者共と振舞
ゆさんと口くるまの沿口ゆて何もも
花色ゆし先の乳ちよん男ひの家の
ゆとゆて四月くらゆ仕ゆと四
月くくゆ旨一月ゆ花ぞて後せ
しゆ者共と沿ゆ例（家集ゆ神をゆて
ゆ者ゆ者ゆ
敬討姫國家傳　巻之三終

紙紙本行の表紙（茶ゆ茶ゆ
湯山當帳　睦月十日迄
中食
新助食
中食
長左衛門
長兵ゆ